

【議事録】乙川リバーフロント懇談会

日 時：平成 25 年 7 月 19 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分
会 場：市役所東庁舎 2 階 大会議室

概要

リバーフロント部会で行われるまちづくりの検討に対して、国土交通省豊橋河川事務所、西三河建設事務所、中安副市長、公益財団法人リバーフロント研究所から助言をいただき、乙川リバーフロント整備計画を実効性のあるものへ高めていくため、岡崎活性化本部による第 1 回乙川リバーフロント懇談会が行われた。

議事内容

1 開会

事務局である岡崎活性化本部より開会宣言。

2 あいさつ

座長より下記のとおり、あいさつを行った。

- ・乙川リバーフロント地区は、多くの人に関心を持たれている重要な場所である。
- ・負の遺産ではなく、正の遺産として後世に引き継ぎたい。
- ・グローバルな視点とローカルな視点の両方を持って議論したい。

3 懇談会の趣旨について

活性化本部より、懇談会の設置要項及び「乙川リバーフロント計画」について説明を行った。

- ・要綱を読み上げ、この要綱に基づき当懇談会を進めていくことを説明。
- ・乙川リバーフロント計画の目標は、「観光産業都市の創造」。
- ・当整備計画は、3つの事業（①観光・商業の振興に係わる事業、②中心市街地の回遊性・賑わいの創造に係わる事業、③機能的で美しい水辺空間整備に係わる事業）を柱とするハードとソフトの整備を有機的に連携して組み立てていくことになる。
- ・岡崎活性化本部リバーフロント部会の役割は、民間ならではの知恵やアイデアの提案。具体的には、観光に的を絞ったお店を経営してくれる民間事業者を見つけ、育てていくことなど。
- ・当懇談会の趣旨は、アドバイザーから助言をいただき、計画を実効性のあるものへと高めていくこと。
- ・今年度策定する基本方針は、まちづくりに関する 5 個程度のキーワードでまとめることを想定。
- ・当懇談会は今年度合計 3 回行う予定。2 回目は 10 月中旬、3 回目は 1 月下旬を予定している。

4 議事

(1) 乙川リバーフロント地区の現状と課題についての意見

- ・この地区では多くの計画が動いているが、それらが、一つの貫かれたビジョンにより実施されているのかという視点が大切である。
- ・現状について、岡崎市民はこれらを肯定しているのか？
乙川リバーフロント地区が観光資源として利用され、更に資源としてだけではなく、後世に対して誇れるものにしていく必要がある。
- ・岡崎にとってどこの景観が大切か？
殿橋から西を見た景観だと思うが、現状では、近代から現代、西洋等様々な建物が建ち並び、雑然(カオス)となっている。榎文彦は東京に対してカオスの美と言ったが、そんな状況ではない。これからの検討をとおして「殿橋から西を眺めた景観」を何とか変えて行きたい。
- ・岡崎にとって何が大切で、何がいらぬか。
デザインは削ぎ取る事で生まれる美しさもある。いろんな観点から幅広い意見を吸い上げながら、リバーフロント計画を進めたい。
- ・色々な人の話しを聞くと最大公約数的になりがちであるが、アドバイザーの皆さんの確かな目でそれを見極めていただきたい。

(2) 1級河川乙川の整備状況について

西三河建設事務所より乙川の整備状況について説明を行った。

- ・(想定) 乙川リバーフロント地区部の乙川は、河川整備計画上「整備済」である。
- ・乙川リバーフロント地区より上流での計画や、河川の利用状況等を説明。

(3) 意見交換

アドバイザー

- ・岡崎市を観光産業都市にしたい。
- ・乙川リバーフロントの想定エリア(菅生川のエリア)は岡崎の核となるが、現在ではこの空間を十分に活かしてきれていない。
- ・河川管理という制約をふまえないといけませんが、部会の方からアドバイザーに対して「岡崎が活性化するためにこんなことをやらせて欲しい」ということを意見としてどんどん出してもらいたい。

アドバイザー

- ・このエリアは岡崎全体からみて、市民の心の中心地、核となる存在になっていると思う。駅、街中心部、岡崎城に近く、ポテンシャルは高い。
- ・「過去の価値を踏まえつつ、新しい価値観を創造していく」ということが大事だと考えている。

アドバイザー

- ・明治15年に破堤、昭和46年に大きな被害が出ている。活用、計画を検討する際に、数年に1回は必ず高水敷の上を濁流が流れるということは念頭においておくべき。
- ・乙川は、市街地の中心を流れている。水と接した広い高水敷をもっている。周りに豊富な緑がある。経験上、これほどの財産をもっている川は愛知県には少ない。これを活用する

ことが重要だ。

- ・今はどの市町村でも観光に力を入れつつある。ある面では客の取り合いであるが、ある面では連携して相乗効果を生むことも考えられる。乙川リバーフロントの売りは何か、ターゲットをどこにするのか等とともに、周辺自治体との連携ということも重要な視点と考える。

アドバイザー

- ・河川には河川法があり、治水、利水、環境の目的がある。
- ・殿橋からの風景が一番と思うが、子供や家族連れが乙川で楽しんでいる風景が加わればなお良い。
- ・これからのまちづくり全体の具体的な方向性について考えることが、懇談会や部会の役割だと思うので、ざっくばらんに意見を言い合うことが重要である。

事務局

- ・お話を聞いて、安全が重要というのを再認識した。
- ・民間市民と専門家のつなぎ役として岡崎活性化本部が携わっているという認識である。ざっくばらんな意見交換をお願いしたい。

部会員

- ・鯉の「みかちゃん」を活用できないか？釣りはできないか？
(岡崎活性化本部より、吹矢橋下流は禁止との回答)
- ・観光を考えた場合、「おもしろい」と市民に受け入れられないといけない。
現在オカザえもんの人気があり、賛否両論あるが、それがまたおもしろい。住んでいる人達が「おもしろい」と人にお奨めできるものがあるとよい。
- ・現状では、中心地にワクワク感のあるものがないと考える。例えば巨大な何かがあるとか、写メ撮って拡散できるものがあるとよい。(大きなみかちゃんなど)

本日欠席した部会員の意見紹介

- ・この場所は、岡崎の品格を決める重要なところである。
- ・東岡崎から岡崎城まで河川を利用した「河川回遊庭園」を提案する。回遊の有効性の実験として、殿橋の下の橋脚と明代橋の橋脚をつかって、仮設の橋をつくってはどうか。

部会員

- ・海外（アメリカ、フランス）からインターンを受け入れており、岡崎の街を案内するが、歩いて回遊できる楽しさが今はない。ポイントとしてはあるものの、街並みになっていないことが問題と考える。
- ・お祭りも重要だが一時のこと。資源を大切にし、常時人が来てくれるものを創る必要がある。
- ・見所を車ではなく川辺を歩いて回遊できる魅力づくり、ストーリー作りができれば面白い。
- ・京都は川をうまく利用している。川床など作れないか。例えば川辺でビアガーデンすることも考えられる。ビルの屋上よりも人の動きも見えて良いのではないか。京都の川床の安全性を含めてリサーチしないといけないが、参考にしてよいと思う。

アドバイザー

- ・川床を造る際には、阻害及び流出要因にならないことが条件となる。

アドバイザー

- ・最近では国内でも様々な工夫を取り入れて活用している事例がある。事務局から事例報告してもらいたい。最初からダメというのではなく、どうしたらできるかという方向で考えていきたい。

事務局

- ・花火大会の栈敷の説明等。
- ・フロート式、可動式なら大丈夫か等というような様々な観点から検討できればと考える。

部会員よりアドバイザーへ質問

アドバイザー

過去の伝統行事ではなく、新規に洪水時に除去できないような施設を河川敷に置くことは一般論として、河川管理者から認められない可能性が高い。

アドバイザー

- ・様々な発想や事例を勉強することで可能となるかもしれないので、今後も議論させていただきたい。
- ・栈敷については、伝統行事であることを含め、様々な条件を考慮した上で許可を出している。

事務局

- ・現在は予報システムも発達しており、それらを活用して、撤去までにどれくらい時間が必要か、そのための施設となるとどのようなものか？というようなことを議論すると良いかもしれない。

部会員

- ・岡崎城と八丁味噌地区は約900mしか離れていないが、観光客は車で移動している。途中でイベントや商店など魅力的なものがあれば、徒歩での移動も促進され、観光にとっても数倍の効果がある。
- ・間の板屋町は古民家があり、数年前に寄席やマジックをやっていた。そのようなことも利用できるとういかもしれない。

座長

傍聴されている方々からも意見をお願いしたい。

傍聴者

吹矢橋下流は、新規に開削した川であり、地元では「菅生（すごう）川」と呼んでいる。丁度リバーフロント地区はこの辺りにあたるので、「菅生川」という名称をなんとか使ってもらいたい。

傍聴者

今の段階では、行政上・法律上できないということはあまり考えずに、自由な思想でアイデアを出して議論してもらいたい。

傍聴者

浄瑠璃姫の伝説等がある矢作地区も含めて、もう少し広域的に議論してほしい。

アドバイザー

- ・広島市の原爆ドーム付近に流れる太田川沿いのカフェやレストランの事例紹介
- ・この事例では、活用されている部分は河川護岸の天端部であり、高水敷の利用ではない。河川の有効利用は、それが基本である。

事務局よりお知らせ

- ・乙川左岸殿橋上流付近で夏祭り事業の一つとして、カヌーの試乗体験を企画中である。水面から川をみるという視点を変えることも重要なので、是非ご参加いただきたい。

5 閉会

事務局より、閉会の宣言を行った。

以上